オーディオ実験室収載

アナログプレイヤーの比較試聴(34)
－モーツアルトを聴く(34)－

１．始めに

前報(33)に引き続き、アナログプレイヤー3 機種の比較試聴を実施していきます。

２．アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3 機種の試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は交響曲です。

PHILIPS X-5565

モーツアルト　交響曲第 35 番ニ長調
行進曲ニ長調
交響曲第 40 番ト短調

ネヴィル・マリナー指揮アカデミー室内管弦楽団

ドイツグラモフォン　MG1051

モーツアルト　交響曲第 40 番ト短調
交響曲第 41 番ハ長調＜ジュピター＞

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

CBS SONY 32AC 1310

モーツアルト　交響曲第 40 番ト短調
交響曲第 41 番ハ長調＜ジュピター＞

ラファエル・クーベリック指揮バイエリッシュルントフンクス

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを 2 ケ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告した TruPhase から 300B アンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

さらにダンパーフレークの導入(5)で報告したとおり ThorensTD124 と Grrad401 のカートリッジシェルにもダンパーフレークを適用しています。

３．アナログプレイヤーの比較試聴結果

PHILIPS 盤は、RIAA、正相、第 4 時定数 High で、ドイツグラモフォン盤は、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で、CBS SONY 盤は、Columbia、逆相、第 4

時定数 Low で聴いていきます。
PHILIPS 盤では、ThorensTD124 は、マリナーのややアップテンポできびきびした抑揚のある指揮の演奏をうまく表現できています。
LINN LP-12 は、爽やかで切れの良い音がします。
Garad401 は、TohrensTD124 より厚みのある音ですが、ディテールの再現も一定程度確保されています。
ドイツグラモフォン盤では、ThorensTD124 は、音は固めですが、ベームらしい構成のがっちりした演奏であることが伝わってきます。
LINN LP-12 は、TohrensTD124 の固めの音は解消され、ソフトでディテールの再現も確保されています。
Garad401 は、厚みのある押出のよい音でベームらしい構成のがっちりした演奏を再現してくれます。
CBS SONY 盤では、ThorensTD124 は、1980 年のディジタル録音ながら、ディジタル臭さは感じられず、明るく伸び伸びとした演奏が感じられます。
LINN LP-12 は、緻密でディテールの再現もしっかりしています。
Garad401 は、ディジタル臭さは感じられず、中庸でバランスの取れた音がしています。

４．まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3 機種 3 様の再生パーフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレークの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上